

令和4年度第6次竹原市総合計画効果検証会議

日時 令和4年7月6日（水）10時～

場所 竹原市役所3階 第1・2委員会室

事務局 (開会)

今榮市長 (挨拶)

事務局 (委員紹介)

事務局 (資料1及び2説明)

沖本教育次長

梶村建設部長兼公営企業部長

國川観光まちづくり担当部長

平田総務企画部長

(資料3「呼び込む“ちから”づくり」説明)

事務局 呼び込む“ちから”づくりに関する施策のご説明は以上となります。委員のほうからご意見やご質問などをいただければと思いますがいかがでしょうか。では、百武先生のほうから手が上がりましたので、百武先生にお願いしたいと思います。

百武委員 はい、どうもありがとうございました。私のほうから事前にお話ししたことについても丁寧なご回答をいただきまして、ありがとうございます。これを拝見していると、コロナということがあり、目標を達成できてない部分もあるのですが、一方で空き家活用ですとか、先ほどの公園の里親制度ですとか、歩きやすいまちづくりへの提案みたいなどころでとても評価できる部分も多いと思いました。

その上でちょっと指摘をさせて頂くのは私が事前にも意見を書かせていた

いただいた景観まちづくりのところでは、1ページの1の(1)の②の景観の景観まちづくり団体のところなのですが、景観まちづくり団体については、重点地区における清掃活動など、良好な景観の形成に資する取組というふうに書いてくださっているのですが、何か清掃活動を景観形成ということにしているのは、ちょっともったいないかなと思いました。私にいただいた返答の中には、イベントの開催ですとか、より積極的な景観形成に関わるようなことをされているように書かれておりましたので、清掃活動などというよりは、むしろよりよい景観づくりのためのイベントですとか、伝建地区の景観についてのPR活動ですとか、そういったことを例として挙げたほうがいいのかと思いました。特に観光の部分にこれから力を入れていかれるのが分かりましたので、観光と景観まちづくり団体でのイベントと重なる部分部分をどのように連携させていくのか、がよく分かると思います。1点目はそれです。

もう一点は2ページ目の1の(3)の①の2のところでは、全人口に占める20から40歳代の女性の割合というところが数値目標になっているところなのですが、この取組を見ると子育て中の女性というのをターゲットにしたものとなっています。20代から40代の女性は、必ずしも子育て中とは限らないので、子育て以外に若い女性に特化した施策というのはどこにあるのかと思いついて見ました。

それと、新たに付記されている一般受付の登録件数が2件というのは、少ないように思うのですが、有効性についてお聞きしたいと思いました。以上です。

梶村建設部長

兼公営企業部長 1つ目の景観まちづくり団体数の記載内容につきましてご質問いただいたところでございます。様式3のほうに記載している内容が清掃活動ということで、内容を少し限定的な形で記載しておりますけれども、一方で、委員のほうに直接ご回答した内容につきましては、清掃活動やイベントなどに取り組んでいる団体ですとか、あとは桜の保護活動に様々な形で取り組んでいらっしゃる団体というようところで想定しておりますということで

ご回答させていただいております、確かにそのような記載も様式3にあったほうがよかったかなというふうに反省しておりますけれども、思いといたしましては、まちづくりというものがやはり継続性というものがないと成り立っていかないというところがございまして、日頃の取組の一つがその清掃活動ということになりまして、その方々の思いというものがないと、なかなか続けていけないというところがございます。こういったところは、市としてもしっかりそういった方々、団体の方がいらっしゃいますので、支援していかなければならないと考えています、そういった記載になっていたというところでございます。

こういった団体の方は、委員への回答のほうでイベント等を実施されているということがございますので、そういった様々な方面の効果があろうかというところで、団体に指定していく中で景観まちづくり団体という形でも指定していくというところでございます。

それで、このような団体との観光施策との連携の話ですけども、この指標の目標像に立ち返りますと、「竹原市らしさを感じるまちに人々が集まり賑わいが生まれている」という目標がございまして、こういったものの景観施策の取組として、このような位置づけをしているというところがございまして、当然、町並み保存地区というのは、竹原市の主要な観光地の一つでございまして、そういったものを磨いていくというようなスタンスで建設部として取り組んでいくというところで、今の指標としてはまちづくり団体数ということでございますけども、昨年度、景観条例ですとか景観計画を実際に策定してきたということで取組を進めているということでご理解いただけたらと思います。

平田総務企画部長 私の方から移住・定住の関係で、全人口に占める20～40歳代女性の割合ということでございまして、先生からご指摘いただきましたとおり、20から40歳代の女性が子育て中とは限らないということはあるかと思っております。そういった中で、子育てに関する支援等と、相談窓口ということで記載させていただいておりますし、課題の中で記載させていただいておりますとおり、ターゲットの絞り込みやニーズに

合った情報提供が不十分ということもございますので、今ご指摘いただきましたとおり、ニーズの把握ということで、世代として20から40歳代の女性ということ、そちらの方々に向けた取組として、こういったものが一番適切であろうかというのは、今後研究してまいりたいと思っております。

その中で、特に若い世代、まだ結婚されてない方に対しては、そういった情報を提供するというところで、令和3年度につきましては、婚活のイベント等を行った際に助成を行っております。こういった出会いの機会を提供するというのも大変重要だと思っておりますのでそういった面も含めまして、多様なニーズに対する適切な情報提供をしてまいりたいと思っておりますので、この辺につきましても今後研究してまいりたいと思っております。

#### 國川観光まちづくり

担当部長 2点目の観光と景観団体の観光サイドのほうからのコメントとふるさと登録制度について説明をさせていただきます。

観光と景観団体との連携の部分につきましては、本市の観光の大きなコンテンツといたしまして瀬戸内海をはじめとした自然景観、あるいは町並み保存地区をはじめとした歴史的景観、この2つが大きなコンテンツだと思っておりますので、観光といたしましても、より幅広い多くの観光コンテンツをつくる上で、こういった団体との連携というのは重要と考えております。

今年度、そういった取組を官民上げて取り組むDMOの設立も取り組んでいるところでございますので、こういった民間団体との連携についても取り組んでまいりたいと考えております。

また、ふるさと登録制度の一般の方が2件ということで、確かに非常に少ないということについては課題であると思っております。こちらについては、広報のほうには卒業時、協力をいただき高校卒業生に対しては、一定の数字が上がっているところでございますが、一般の方について、周知が不足している面もあるかと思っておりますので、登録いただくことにより、実際にUIJターン等が就職につながるような登録制度が重要かと思っておりますので、まず

は登録いただくということで、一般の方への周知も重要かと思いますが、一方では採用側の企業の皆さんについても、こういう制度があるということで周知を図りながら、成果が生まれるような制度にすることにより登録件数を伸ばしていけたらと考えているところでございます。

百武委員        ありがとうございます。1点目の景観まちづくり団体のところで、清掃活動というのが長期的に見て、毎日の取組ということで重視されているというのはよく分かるのですけれども、一般的に景観まちづくり団体と言われたときに、ほかの自治体とかを見ていても、清掃活動が第一に挙がるというのはあまりないのではないかと思います。もちろん清掃活動が入っていてもいいのですが、もう少し積極的な取組も例として挙げていただければいいと思います。

20代から40代の女性のところの子育て中以外の女性ということですが、例えば観光客で女性比率は比較的多い印象なのですが、実際に来て楽しかった、よかったということをきっかけに若い女性に住んでもらうためにはどんな手だてがあるのということも含めてご検討いただければと思います。

事務局        ありがとうございます。ほかの先生方でご意見などいただければと思いますがいかがでしょうか。では、和田先生、お願いいたします。

和田委員        ご説明ありがとうございました。私が事前に読ませていただいて指摘というか、コメントをさせていただいたことですが、全般的に評価表の書き方ですけども、令和3年度はこういうことをしましたとインプットが書いてあって、課題のところはその結果どうだったかということではなくて、環境変化がこうだったためできなかった、できたという話で、それを踏まえて令和4年度の取組がこうですよというような文脈というか、ストーリーが少し見えづらいなと思いましたので、今すぐ回答してくださいとは申し上げませんが、そのような評価の仕方と見せ方をしていただければいいかなというふうに感じたところです。

事前に指摘させていただいたところで、観光のほうは少し口頭で補足を

いただいたり、公園のところは社会実験がどういったもので、どういう成果を得られたかということを追加で説明いただいたので、その辺はありがたかったと思います。

次に、社会実験でいうと文化施設、歴史文化財の1番のところですが、令和4年度に民間事業者による社会実験を実施し、と書いてあるのですが、社会実験という、何らかの問題意識があって、目標像があって、仮設を設定し、それを検証し、あるいは関係者によってどういう合意を形成するかということが重要になってくるかと思うのですが、この文化施設の社会実験、聞き取りにくかったのですけども、おっしゃっておられたら申し訳ないのですが、どのようなことを想定しておられるかお聞かせいただけますでしょうか。

沖本教育次長 この社会実験については、先ほどもありましたように、文化4施設に加えて、3施設を含めた7施設が、重要伝統的建造物群の保存地区の中にその6施設があって、その近隣にもう1施設あるのですが、先ほどの説明にあったように、大きな観光コンテンツの中にある施設、我々としては、こういった文化施設を適切に保存しながら、ただ、観光で活かせる場所にありますのでしっかり活用を図ってまいりたいと考えているが、集客や収益を上げるような適切なアイデアが我々の中で良い発想がないため、民間事業者の発想を生かし、この文化4施設と合わせた7施設をうまい具合に活用を図っていただくことで、今後の施設活用についてのアイデアやデザインを描いていけないかなという意味での今回社会実験の取組でございました。

令和4年の年末頃から公募をかけまして、結果、2月の終わりぐらいに申込みが4社4団体あったというふうに記憶しているのですが、我々が意図しているような提案がなかなかなかったのですが、そのうちの1団体の提案が収益も上げられるような内容でありましたので、その中で具体的に集客や収益をどうするのかというところを調整を図りながら取組を進めているところでございます。

和田委員 それは社会実験というよりも、民間事業者に委託をして、より効果的なマ

ネジメントを図るということですよね。社会実験という、もう少し違うイメージを私は持っている。そこら辺の整理をいただければと思います。

沖本教育次長 先ほどの社会実験のことなのですが、今回は委託業務という形で、委託料を発生させてやるわけではなく、提案をしていただいて、そこでできれば収益を上げるようなことをやっていただいたら、逆に家賃をいただけるような、そういった仕組みにもならないかなというところで、あくまでも先生がおっしゃられる社会実験とはちょっと合わないかもしれないですが、委託事業とも若干違うということをご理解いただければと思います。

和田委員 提案型事業ということですね。

沖本教育次長 そうです。

和田委員 分かりました。

山川委員 すみません。1つだけいいですか。感想めいたことになるのですが、令和2年度と違って、令和3年度の事業というのは、コロナと共存していかないといけないということや、何かこれまでもう起きていた変化がさらに加速化して進んでいるというような状況に対して、何らか手を打たないといけないというような模索を始めているなというところは、皆さんがされてきたと心から強く実感をしたところです。

ただ、そうした側面を評価できる数値目標になっていないので、ぜひ皆さんがアフターコロナや、あるいはコロナとの共存とか、何かそういった価値観の変化が起きている、社会の変化が起きているものに向けて取組を模索されようとしているものがしっかりと評価される数値目標にどんどん変えていってほしいというのがお願いしたいです。

例えば、観光については、来館者とか来場者ベースでの数値目標というのは、あまり意味がないというか、オンライン等が入ってきたりしている状況とか、あとやはり出ていって見ていただくというそのアウトリーチ的な考え

方というのが強くこう出てきているところでいうと、オンラインとか、アウトリーチも含む参加者とか、関係者をベースとしている数値目標でないと、この数値目標である限り、逆に取組が制限されるようなイメージを受けました。

それとの関連になるのですが、伊藤先生がご指摘されていたように、観光が全体がなかなか来館者や来場者というところで評価するので、数が減っているにもかかわらず、観光消費額が上がっているというか、維持できているというところは、私はとても注目に値する、竹原がもともと観光資源として魅力があるということを示しているように思えていまして、例えばこういったところに対しては、大量に観光客を呼び込むというよりも、価値あるものを楽しめる層に対してアプローチをしていくというような、そこがもしかしたらそういう方がリピーターになっていって、将来的に移住をしていくとか、ビジネス展開していくというような、そういう道筋を、これももしかしたら実験的にかもしれないのですが、描いてみるということも必要なのかなというふうに思いました。

これも関連で、これで最後です。価値観の変化というのを考えていくと、PRの仕方というのは、やはりできるだけ双方向性が重要ではないかと思っ、やはりいろいろとお金をかけたときに、プロモーションとして一方的に発信していくばかりだと、ニーズが見込めなかったりとか、ニーズの把握ができなかったりするため、例えばSNSにしても、ホームページ等についても、閲覧の部分をしっかり分析していただいたりとか、あとインサイトというのですかね、どういう方がのぞいているというような分析ができたりとか、そういったコミュニケーションツールとしてPRというものを使っていくということも必要なのかなというふうに思いました。

事務局           ありがとうございます。何か補足とかコメントとかありますか。

國川観光まちづくり

担当部長           ありがとうございます。観光、価値あるものということでございまして、本市においても、観光庁の事業を活用しながらというのもありますけれど

も、竹原の観光の看板商品をとということで、その取組をさせていただいたり、高付加価値化ということで、質が高く、稼げるといった、観光消費額が伸びるような観光コンテンツの造成を図っているところでございます。

先ほど教育次長のほうからございましたが、町並み保存地区の社会実験、提案事業についても、こちらで事業をご提案いただきまして、引き続き取り組めるようでありましたら、観光コンテンツの1つとして取り入れられたらということで考えているところでございまして、先生からご指摘、ご意見いただきましたように、いかに稼いでいくかというのが重要かと思っていますので、そういった方向で取り組んでまいりたいと考えています。

山川委員      ありがとうございます。おっしゃるとおり、本当に量から質へとか、アナログからデジタルへという、何かそのあたりがしっかりとこう反映させていくことを願っています。以上です。

事務局      ありがとうございます。次に育てる“ちから”づくりの関連の分野について説明をさせていただきます。

塚原市民福祉部長

沖本教育次長

國川観光まちづくり担当部長

(資料3「呼び込む“ちから”づくり」説明)

事務局      育てる“ちから”づくりの関連施策の説明は以上となります。ご意見であるとかご質問ですとかご感想などを含めて、いただければと思いますが、どなたかいらっしゃいますか。では、伊藤先生のほうにお願いいたします。

伊藤委員      非常に悩ましい評価作業だったと思いますし、実際に事業の準備をされるほうも大変な時期だっただろうと思います。けれども、当初の質問に対して親切に答えていただきましたので、十分に納得、理解することができました。

事務事業評価という点では、やはり全体のパーセンテージが去年よりか少

し下がり気味になっています。これは、去年も申し上げましたけれども、例えば観光関連などは「評価不能、困難」ということで分母から外すというようにすることもできると思います。しかし、正直にそのまま分母にされて出してらっしゃるので、これはこれで重要なことだろうと思います。

それはともかく、前半・後半を通して2点ほど気づきです。先ほど國川部長のほうからもご指摘あったことにも関連しています。

1点目は、先ほど和田先生から、取組と課題、それらを次のプランに続けるためのストーリーのようなものが少し弱いのではないかということがございました。確かにじっくり読んでみると、インプットの指標はあるのですが、それに対応するアウトプット、アウトカムという指標が弱いのではないのでしょうか。よく読んでみると、アウトカムにかかわる記述はあるのですが、やはり数値化しにくいものも少なくないと思います。ということで、なかなか全部の事務事業・施策について統一させるのは難しいのですけれども、そういうインプットと、さらに単純なインプットではなく、それで何があったか、どういった成果が具体的にあったか、だからチェックして次のアクトにつなげるといったようなストーリーがあればさらによくなると思いました。これは、次年度以降でよいのですけれども、ストーリー性があれば納得できるし、PDCAサイクルが描かれれば、より目に見えるような形になるのではないかなと思いました。なかなか難しいのですけれども、工夫していただければと思いました。

それから、もう一点、これも前半・後半の横断的な話ですけれども、空き家バンクの担当を企画部門から建設部門に移されたということです。企画部門は、様々な包括的、総合的、あるいは初期、始動期の仕事をされていますので、徐々に慣れてくれば、個別的・専門的な部局に移すことは、これは非常にいいことと思います。ただし、一方では、いわゆる縦割りのおそれもあり得ます。だから重要なのは、むしろ何かというと、今度は、ある程度事業が軌道に乗ってくると、部門間をクロスして組み合わせた施策・事務事業も重要ではないかというように思います。

実際には、先ほどあった就職相談と、UIJターン支援、移住支援、空き家バンクとの組合せというのも一つの考えです。それからもう一つは、20

歳代，40歳代の女性の比率，人数を高めるために，子育て支援や婚活イベント支援等を組み合わせることが重要だろうと思います。これだけではなく，むしろ20代，30代，40代の女性の仕事を確保する。具体的には観光関連，食やカフェ，あるいは子育て支援，そういう仕事の確保と居住支援を組み合わせるといことも今後は重要ではないかというように思いました。いずれも感想なのですが，以上です。

事務局           ありがとうございます。何かご意見とかありますか。では，百武先生，お願いします。

百武委員           2点あるのですが，1点目，地域人材養成講座受講者数という最後のページなのですが，現在，受講しているのはすべて職員の方なのです。文化生涯学習課の職員や地域交流センター職員の参加ということになっているのですが，できれば，職員の方だけでなく地域の住民の，市民の人と一緒に学ぶ機会にしてほしいと思います。地域での活躍するリーダーを養成していく意味では，一緒にやったほうが効果が高いと考えます。

もう1点は，あと不登校のところ，やっていらっしゃることはとてもいいことであると思うのですが，数値のほうが割合を減らせば，本当にいいのかというのかという疑問が残ります。むしろ，学校以外でも不登校の子供たちがいられる居場所みたいところをうまくつくっていくことのほうが重要なかなと思いました。目標数値に直接現れない施策もおそらくされていることと思いますが数値目標に関わらない試みとその成果も補足して示せるといいと思います。以上です。

沖本教育次長   ご意見ありがとうございます。ここで言う地域人材については，地域自治を担う，自らの課題を自らが把握して，それを自らで解決するために動ける人というようなイメージで捉えております。そういうことでございますので，やはり市民一緒にとすることは必要だと思いますので，その方向で検討してまいりたいと考えております。

不登校については，当初は学校復帰を目的とした取組だったのですが，今

は社会的自立を目指すという考え方が入ってきております。そのために社会とのつながりを切らないように、今年度考えておりますのは、なかなか不登校の児童・生徒というのは、家からも出られないという子供さんもいらっしゃいますので、そういったところにアウトリーチをかけることによって社会とのつながりを維持していくような取組の検討を進めているところでございます。以上です。

百武委員 大変結構かと思えます。ぜひよろしく願います。

事務局 いかがでしょうか。ほか何かございますか。では、山川先生、お願いします。

山川委員 私、事前に幾つか質問を出させていただいたものに1つずつ丁寧に答えていただいて、ありがとうございます。

まず、3ページの子育て支援のところの地域子育て支援センターの子供1人当たりの利用回数ですが、お話しいただいたように、休館というのもあったと思いますので、ぜひそこに代わる対応をしているのだということを表に出していただきたいということが希望です。それは、やはり私、エソール広島というところでも仕事をしているのですが、その中でやはりコロナ禍になって増えたのが、とにかく相談です。孤立化する人が増えてくる中で、どこに相談していいか分からないという状況がまた別の問題を生むというようなことがあるため、ぜひこの子育て支援センターで、1つ閉所してしまったということなのですが、何とかこの時期なので、一層拡充していただいてセーフティーネットとしての活用ができるように、それからそれを市民の方にぜひ伝えていただきたいというのがお願いでもあり、ここに記載していただきたいことです。それが1点です。

2点目が学校教育についてです。とても本当ここが悩ましいなと思って拝見していたのですが、事前に送っていただいている資料の1の中では、総合計画全体の目標でいうと2の文教のまち竹原というところの2の子供たちが夢の実現に向け挑戦できる環境が確保されているというような部分だと思い

ますので、学力も必要だということここでここに、それから体力も必要だということここで成果指標を出されているのだと思うのです。一方で、この元気プロジェクトの枠組みで見ると、地域力の強化の中に入っているのです。そのため、多分その両面、地域力の強化かつこの子供たちが夢の実現に向けという、何かその両方を勘案した指標が必要になってくるという中で、今、主なものとして学力、それから不登校、それから体力ということになっているのですが、1つご説明いただいたのは、基礎学力テストそのものが、あるいは新体力テストそのものが学年を対象としているため、学年が変わったものに対して経年的に追えないのだというようなお話、その課題もクリアする必要がありますが、もう一方で、地域力の強化に関する指標を次期においてはぜひ入れていただきたいというふうに思っています。竹原市はほか、特徴的なところとして、全市上げてのコミュニティ・スクールの導入ということを広島県内でも先駆けてされていると私は認識していますので、ぜひそういった事柄を入れていただけないでしょうかというふうに思っています。

最後、全体についてですが、百武先生も何度か言っていたとおおり、多分もう公共事業を行政だけでやるということには無理があるというか、だから、いかに公共の場づくりや、公共的なことに市民、住民が自分たちでもやろうよと思えるかということが大切だと思いますので、そちらに向くような施策とか指標を入れるということと、これも質問を兼ねてなんですが、広島広域都市圏の中で、オープンデータのサイトをオープンされているので、例えばそういったところに竹原市のデータが十分出ていれば、市民の方がそういったものを自分たちで活用しながら状況把握とかもできると思うのですが、私が拝見した限りでは、例えば観光等についてのデータの紐づけもまだされていないようなので、今からされるという認識でよろしいですかね。そのオープンデータの活用ということを少し今後は考えられたらどうかというふうに思っています。

以上、2点が今のご説明いただいたことについての質問なり感想で、最後の点については、全体を通してオープンデータの活用について考えていただきたいということです。以上です。

塚原市民福祉部長 地域子育て支援センターの件でございます。説明部分でも申し上げましたが、もともと3つの団体でやっていたいたのですが、1つの団体につきまして閉所されたということでこのような状態になっています。ただ、この数字には目標値の28名であるとか、基準値が24名であるとか、こういったものが3割減と、3分の1だから、3割減程度で済むのかなと思っていたのですが、5割以上の減になっています。6割減ぐらいになっておるので、少しここは確認と調査しなければならないなというところであります。ただ、今ある2つの団体に担っていただいておりますので、そちらの2つの団体と調整しながら、これまで以上に拡充であると、周知であるとかそういう形で取り組んで子育て世代の支援をしていきたいと考えております。

沖本教育次長 学校教育における生活指標についてご意見をいただきました。本市においては、令和2年にまず4校、コミュニティ・スクールを施行導入いたしまして、令和3年には11校、市内にある全校コミュニティ・スクールを導入いたしております。先進的な取組として山川先生のほうにご承知いただいているということで非常にありがたく思います。

このコミュニティ・スクールについては、開かれた学校づくりの推進というところもありますので、今後は生活指標の中に取り入れてまいりたいと、そのように考えております。ありがとうございました。

#### 國川観光まちづくり

担当部長 広域都市圏のオープンデータ、観光等の活用ということでございますが、現在、竹原市の例えば観光ホームページ等については、竹原市と観光協会が運用しているのですが、このホームページが実は広島県の観光連盟とリンクをしておりますと、市に登録しますと、県の観光連盟でアップされるという仕組みになっておまして、やはり本市の観光ホームページよりは広島県の観光連盟のほうがアクセス数が抜群に多いということで、現在そういう状況になっておりますが、実は広域都市圏のそういったホームページと県の観光連盟のホームページが今まで全く違う仕組みであったのですが、現在、統合

している作業中だと思っております、これが一本化できれば、市のホームページを登録しますと、広域都市圏、観光連盟が一本化されるということで進んでいるかと思っておりますので、市においてもこういったアクセス数の多い団体等のホームページ等にアップされるというのは意義があるものと思っておりますので、そういった取組を連携しながら進めてまいります。

平田総務企画部長 もう一点、公共が行う事業を全て行政が行うのは先生のほうからも無理であろうということは、我々も当然十分認識しております、先ほどのオープンデータの活用も、最終的には市民の方が活用できるというのが広義の目標でございますので、そういった意味も含めると、官民の連携というのがこれから非常に大切と思っておりますのでそういった面も含めまして、今後の指標にもそれらの活用も踏まえて、取り入れてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

事務局 時間が来てしまいましたので、何か全体的な部分でも結構ですが、最後に、ご意見がある方、いらっしゃればお願いします。いかがでしょうか。よろしいですか。

本当は最後のところで、事前にいただいていたご意見、指摘事項に関して個別にお返しすることとか、全体的な部分でのご質問についてお答えをしようと思っておりましたが、時間もなくなってしまったので、それに関しては取りまとめた資料として皆さんに委員の皆さんに共有させていただこうと思っております。資料での提出になってしまうのですが、また後日ご確認いただければと思います。その上でもし追加のご質問とかご指摘があれば、メール等でお返しいただければと思います。よろしく願いいたします。

それでは、すみません、少し時間がオーバーしてしまいましたけれども、これで本日の効果検証会議のほうを終了いたしたいと思っております。長時間どうもありがとうございました。